

## 学校における 麻しん対策ガイドライン

新生児に起きる先天性風しん症候群 (CRS) の主な症状としては、難聴 (耳の症状) と白内障 (目の症状) と心臓疾患の頻度が高く、他に体重が少なく生まれたり、血小板減少性紫斑病脳炎などを起こす場合もあります。

先天性風しん症候群 (CRS) の症状は、妊婦が風しんを妊娠経過のいつ発症したかによって、出生時の症状の重症度や頻度が異なります。妊婦が風しんを発症した場合、それが妊娠1カ月の頃だと新生児に先天性風しん症候群の症状があらわれる頻度は50%以上、妊娠2カ月だと35%、妊娠3カ月で18%、妊娠4カ月で8%程度と言われており、妊娠中期から後期の妊婦さんが風しんを発症しても、一般にこの疾患は起こりません。

先天性風しん症候群 (CRS) を予防するためには、妊娠する前に風しんに対する免疫を獲得しておくことが重要です。また、これは女性だけの問題ではなく、男性も風しんの免疫を獲得し、発症しないようにすることにより、周りにいる妊婦さん (ご家族や勤務先の同僚など) を風しんから守ることにつながります。

現在、多くの場合、麻しん風しん混合ワクチンが用いられています。この予防接種を受けることで麻しんと風しんの両方の免疫を獲得することになりますので、麻しんと風しんを同時に予防していくという認識が重要です。なお、接種不適合者については、P25の(5)接種不適合者の項を参照してください。

